

事業PRの戦略学ぶ

岐阜広告協会 JT担当者招きセミナー

岐阜広告協会(杉山幹夫会長)主催のスプリングセミナーが23日、岐阜市司町のみんなの森ぎふメディアアコスモスであり、日本たばこ産業(JT)たばこ事業本部渉外企画室課長の米山文子さんが

が、同社の広告戦略について語った。会員ら約50人が参加。講演は「共存社会の実現に向けて」と題して行われた。米山さんは、2003年の健康増進法の施行を受け、テレビでの商品広告を行わないなど、業界内に自主基準が設けられたことから、たばこのマナー啓発や分煙推進、煙の出ない製品開発など、喫煙者と被喫煙者の共存を目指す事業のPRへと転換した、と説明した。

マナー啓発については、「たばこを持つ手は、子どもの顔の高さだった。」といった「あえて喫煙者に厳しいコピーを使った結果、記憶に残り啓発効果もあった」と語った。

(大賀由貴子)



広告戦略について語る日本たばこ産業の米山文子さん
「岐阜市司町、みんなの森ぎふメディアアコスモス」